

学際シンポジウム

近代日本を生きた「人々」の日記に向き合い、未来へ継承する

研究プロジェクト「近代日本の日記文化と自己表象」特別企画

2019年9月28日（土）、29日（日）

明治学院大学白金校舎、本館10階大会議室

特別上映 映画『タリナイ』（大川史織監督）

同時開催「高度経済成長期の日記」展 「女性の日記から学ぶ会」協力

9月28日（土） 13:00-18:40

総論1

「『人々』はいかに、そしてなぜ、日記を綴ってきたか：根源的な問いから日記文化研究を展望する」（田中祐介、明治学院大学）

第1部 日記帳と手帳の文化史に向けて 司会進行：大貫俊彦（千葉工業大学）

「夏期休暇と子どもの日記帳 明治・大正期における定着と展開」（柿本真代、仁愛大学）

「女性と家計簿の近代 モノとしての家計簿の役割にみる」（河内聡子、東北大学）

「昭和戦後期の日本のサラリーマンをめぐる手帳文化」（鬼頭篤史、京都大学）

「手帳類プロジェクトの取り組み 見物から研究へ、私的な記録がひらく可能性」（志良堂正史、「手帳類」プロジェクト代表）

第2部 自己をつづることの近代 教育制度編 司会進行：新藤雄介（福島大学）

「『六週間現役兵日誌』における軍隊経験 小学校教員はいかにして兵士にならなかったか」（堤ひろゆき、上武大学）

「農村の『模範処女』としての自己表象 戦前・戦中期における県農会立女学校の生徒・卒業生作文に着目して」（徳山倫子、関西学院大学）

「植民地期台湾における綴方教育の展開と教員 『台湾教育』と『第一教育』に着目して」（大岡響子、東京大学大学院）

展示企画の紹介

「高度経済成長期の日記展の概要と意義」（吉見義明、中央大学）

「未知の人々の日記を読み、私注をつける」（山田鮎美、武蔵野美術大学学部生）

特別対談：島利栄子（「女性の日記から学ぶ会」代表）・志良堂正史（「手帳類」プロジェクト代表）

9月29日（日） 10:00-18:30

特別上映 映画『タリナイ』（大川史織監督） 会場：明治学院大学アートホール

総論2

「『人々』の生きた証を留め、活かし、未来へ繋ぐために」（田中祐介、明治学院大学）

第3部 自己をつづることの近代 真実と虚構編 司会進行：中野綾子（明治学院大学）

「自己記述の物語化における取捨選択と変容 漆芸家生駒弘のタイ滞在日記と自伝の比較から」（西田昌之、チェンマイ大学・国際基督教大学）

「自己を書く日記／自己を書く書簡 中村古峯史料群の研究プロジェクトより」（竹内瑞穂、愛知淑徳大学）

「水上勉文学における自己語りの諸相」（大木志門、山梨大学）

第4部 個人記録に基づく戦争体験の再検証と未来への継承 司会進行：中野良（国立公文書館アジア歴史資料センター）

「飢える戦場の自己をつづりぬく 佐藤富五郎日記における書くことの意味」（田中祐介、明治学院大学）

「映画『タリナイ』上映から一年」（大川史織、映画監督）

「届かなかった手紙 エゴ・ドキュメントのアーカイブズとしての病床日誌」（中村江里、慶應義塾大学）

「戦争体験から高度成長期体験へ 「青木祥子日記」の検討から」（吉見義明、中央大学）

総合討論

- 参加費無料
- プログラム詳細 diaryculture.com
- お問い合わせ nikkiken.modernjapan@gmail.com（代表：田中祐介）